

Kids デコ活 SDGs Eco Cup Mito 2025 開催報告

～未来を担う子どもたちのエコ活動を讃えて～

8月24日、「Kids デコ活 SDGs Eco Cup Mito 2025」が水戸プラザホテルで盛大に開催されました。このイベントは、環境省が推進する国民運動「デコ活」の一環として、茨城県地球温暖化防止活動推進センターが主催し、水戸市や地球温暖化防止全国ネット、茨城生物の会、千波湖水質浄化推進協会、逆川こどもエコクラブなど、多くの団体の協力のもと実施されました。

今年で4回目の開催となった本大会では、開会にあたり、まず茨城県地球温暖化防止活動推進センター長が挨拶し、その後、水戸市長をはじめ、国会議員や県・市議会議員の皆様が来賓として出席され、地球温暖化の危機と、それに立ち向かう子どもたちの取り組みの重要性について力強いメッセージが届けられました。

さらに、茨城県エコカレッジ体験コースの受講生約40名も参加し、フォーラム運営を学ぶ貴重な機会となりました。茨城県生活環境部環境政策課長からは、環境教育の意義と若い世代への期待が語られました。

第1部では、環境省地球環境局脱炭素ライフスタイル推進室の東海林帆主査による講演が行われ、「デコ活」の目的や地域での実践事例、今後の展望が紹介されました。「デコ活」とは、脱炭素 (Decarbonization) とエコ (Eco) を組み合わせた造語で、持続可能なライフスタイルへの転換を促す取り組みです。



続く第2部では、茨城生物の会の先生方による「昆虫標本づくり」が開催されました。子どもたちはチョウやカブトムシを使って標本を作成し、自然とのふれあいを通じて昆虫の生態や環境保全の大切さを学びました。

GW明けから募集した約100件の応募の中から、厳正な審査を経て選ばれた受賞者がステージに登壇し、その中から、スポンサー賞、優秀賞、最優秀賞、水戸市長賞などが発表され、協賛団体から表彰状と副賞が贈られました。ステージに立つ子どもたちは堂々としており、会場からは温かい拍手が送られました。



水戸市保全課からは「家庭からの使用済み食用油回収実証事業」の紹介があり、家庭でできる環境活動への関心が高まりました。

閉会にあたり、主催者の親法人である一般社団法人 茨城県環境管理協会の理事長より総評と挨拶があり、子どもたちの活動が地域の未来を照らす希望であることが力強く語られました。